

令和4年11月20日

一般社団法人日本内科学会
理事長 南学 正臣 殿

公益社団法人日本小児科学会
会長 岡 明



アセトアミノフェン製剤の在庫逼迫に伴う、成人患者への解熱鎮痛薬処方時のご配慮のお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の流行の持続に伴い、ウイルス感染そのものあるいはワクチン接種に際して、成人・小児を問わずアセトアミノフェン製剤が使用される機会が増加しております。その結果、製造企業が増産を行い可能な限りの量を出荷しているのにも関わらず、在庫の逼迫により流通量が著しく減少し、アセトアミノフェン製剤が必要な小児患者に行き渡らない事態が発生しております。

小児への解熱鎮痛薬の第一選択はアセトアミノフェン製剤です。5歳以上の小児であれば、イブプロフェンが使用できますが、流通量や剤形等の問題があり、処方には限界があります。また特にインフルエンザ流行時には、アセトアミノフェン製剤以外の解熱鎮痛薬の小児への使用は、ライ症候群を発症する懸念がある点、一部の非ステロイド性抗炎症薬がインフルエンザ脳炎・脳症の予後不良因子である点、等の理由で使いにくい状況があります。つきましては成人患者へ解熱鎮痛薬を処方される先生におかれましては、アセトアミノフェン製剤は他剤の投与が困難な場合に限定して処方する等のご高配をお願い申し上げます。

今後、新型コロナウイルス感染症に加え、インフルエンザの流行も懸念される中、本学会から貴会の先生方に無理なお願いをすることを、何卒お赦しいただければ幸いに存じます。

敬具